

（補足資料1）

・ レイトコールについて

セルフジャッジにおいてボールのイン・アウトは瞬間的に判断せねばならず、サービス・リターン等ポイントのエース級ボールが決まった後に
ボールマークを確認してから判定はできない(遅い)。

そのためイン・アウトが微妙で瞬間的にジャッジできず、また返球できなかった場合はセルフジャッジの原則に沿って相手有利のジャッジをし、
インボールとして失点となる。または実際にはアウト・フォールトだったけど瞬間的にジャッジできなかった、しかし返球できた場合はインプレーとして続ける。
返球とジャッジが同時になって声がでなかったとしても、せめて返球が自陣コート内もしくは相手が打つ前に言うようにする。

よくある事例としてポイントが決まりエースと思われたが返球側がボールマークを確認に行って、今のボールはここ・これだった、アウト・フォールトと主張するケースが
みうけられます。これは瞬間的にジャッジできておらずレイトコールで失点となります。

（ボールマークを確認できるのはクレコートのみで、西濃地区で開催している大会会場のオムニコートではボールマークを確認してから判定することはできない。）

(補足資料2)

・プレー中打たれたボールが高かったり勢いが強かった場合、これはアウト・フォールトだろうと思ってたらスピンや風の影響でストンと落ちてインボールになった、しかし頭の中でアウト・フォールトだろうと思っていたし願望もあいまって瞬間的にミスジャッジをしてしまうケースがあると思います。
その場合以下のルールがありますのでご参照ください。

2024ルールブックP208 セルフジャッジの方法-15) 誤ったコールを訂正した場合(クレーコートを除く)

インだったボールを誤って「アウト」「フォールト」とコール(ミスジャッジ)したとしても「グッド」に訂正(コレクション)し**返球が正しく相手コートに入った場合**、1回目は相手への故意ではない妨害としてポイントレットにする。そして2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショット・エースまたは返球がアウトした場合は相手への妨害が起こってないので、1回目であつてもミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。
ダブルスのペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「アウト」をコールしたプレーヤー/チームが「グッド」に訂正した場合も同様の扱いとする。

※大前提として「**故意ではなく**」且つ「**返球が正しく相手コートに入った場合**」となりますので。返球がアウトになったり、ネットに掛けてしまった、またはウォッチして返球しなかったりプレイを止めた場合は適用できません。
また通常ダブルスの場合片方がアウト・フォールトとジャッジをしたがペアがインと訂正した場合、ペアでのジャッジの食い違いについては今まではその時点で失点だったが先にアウト・フォールトとジャッジしたプレーヤーも即座にインと訂正しペアのジャッジが同じになった場合はポイントレットとしてポイントのやり直しができる。
(ペアでジャッジが異なった場合悪意を持って即座に合わせるという練習をする人はいないと思いますが、ダブルスの場合はめったに無いケースと思われます。)

注：コールが聞こえずミスジャッジの訂正が妨害となっておらず相手は正しく返球されてきたと思いプレイを続けたてきたという場合が無いとも限りません。
この場合プレイは続いており、訂正した側はプレイのやり直しと思ってプレイを止めてしまうと失点につながる可能性が高いので、最低限相手が打ち返してくる前に相手に聞こえるように声をだしてアピールしポイントのやり直しとなるようにした方が良いと思います。
ポイントを決められてからポイントレットをアピールしても遅いです。(言った、聞こえてない、といった揉め事にならないようしてください)
万が一プレイが続けられた場合このコール訂正は1回目と数えられず無かった事になります。

セルフジャッジの試合についてのジャッジは瞬間的に行わなければならない、インをアウトとジャッジされる事もあるかもしれません。
お互いにセルフジャッジの五原則に沿って際どいボール・瞬間的にジャッジできない場合は相手有利の判定、
また相手のジャッジを尊重してプレイしていただけると幸いです。